

1. 活動の概要

平成 27 年 6 月 11 日(木) 10:30～12:00(3・4 時限)、松江市立佐太小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。体験活動に「大仏」を希望されていたので、はじめに大仏が造られた奈良時代以前の鹿島町の歴史について、古代出雲歴史博物館の職員から、話を聞きました。鹿島町の町名由来が、『出雲国風土記』に記載されている秋鹿郡と島根郡の合名であること、弥生時代前期から数多くの遺跡に彩られた地域であったことに、びつくりしたり、感心したりしていました。

①実施までの流れ・諸準備

- 学校の担当教諭は地域の歴史教育に熱心な方で、事前にスムーズな打合せできた。
- できる限り、佐太小学校周辺の遺跡解説に時間を割けるようなレジュメ作りを依頼された。

2. 活動の様子

1)鹿島町・佐太の遺跡について知る



「熱心に授業に耳を傾ける子供たち！」



「地名由来の説明」

2)古代体験活動～大仏作り～



「まずは、大仏パネルの作り方を説明！」



「188枚枚のシートを体育館に場いっぱいにはらまきました。」



「約 20 分で綺麗に完成。大仏の額にある○は何？」



「大きさを実感してみよう！」

3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

- ・佐太の知らないことや、鹿島町の由来なども分かって良かったです。説明や絵も分かりやすかったです。
- ・勉強でちょっとわかりにくいところを、先生が楽しく具体的に教えてくれたので、少し安心しました。
- ・説明の時に先生が絵を描いて説明していたので、すごく分かりやすかったです。
- ・大仏の大きさを知れたこと。奈良県に見に行ったことがなくて、行ってみたかったけど、今日、自分たちで作れたので良かった。
- ・大仏づくりが一番心に残りました。

2) 担任の先生から…

- 当日までの流れが大変スムーズで助かりました。
- 鹿島町の歴史について資料をもとに分かりやすく説明してもらった。
- 短時間で奈良時代にタイムスリップした気持ちになれた。

3) 古代出雲歴史博物館から

担任の先生が歴史教育に熱心だったので、児童のみなさんも地域の歴史に素養があり、興味をもって説明を聞いてもらいました。鹿島町や佐太の地名由来を授業の導入にしたので、現代の行政区分の出発点が、奈良時代にあったことを実感してもらえました。そして、弥生時代～奈良時代にかけての多くの遺跡が学校の周辺にあることを知っている児童のみなさんは、渡来人や特殊な古墳の話聞いて感心していました。

これからも、祖先や郷土の成り立ちに興味感心をもちながら、より広い世界に羽ばたいて行って欲しいと思います。

大仏パネル作りでは、18名という少人数ながら、約20分で完成できました。とくに、大仏の大きさを実感され、大仏の頭髪(螺髪)や額の丸印(白毫)、そして手のポーズ(印)の由来を聞いて、大仏のモデルになった仏陀のみならず、奈良時代の仏教興隆施策や、現在に伝えられている奈良の東大寺に対して、ますます興味をもってくれました。

